

外交・安全保障調査研究事業費補助金（総合事業）

補助事業実績報告書

1. 基本情報				
事業分野	※募集要領にある分野 A～D のいずれかを記入 A: 国際政治及び国際情勢一般			
事業名	国際社会におけるリスクの多様化と安全保障・外交の新次元			
事業実施期間	※下記の期間から 1 つを選択し「○」を記入 () 1 年間（平成 年度） (○) 2 年間（平成 27 年度～平成 28 年度）（うち 2 年目）			
責任機関	組織名	東京大学 政策ビジョン研究センター		
	代表者氏名 (法人の長など)	坂田 一郎	役 職 名	センター長
	本部所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 伊藤国際学術センター4 階		
	①事業代表者	フリガナ	フジワラ キイチ	
②事務連絡担当者	氏 名	藤原 帰一		
	所属部署	安全保障研究ユニット	役 職 名	ユニット長・教授
	所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 伊藤国際学術センター4 階		
	フリガナ	マツダ カヨ		
②事務連絡担当者	氏 名	松田 佳世		
	所属部署	安全保障研究ユニット	役 職 名	技術補佐員
	所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 伊藤国際学術センター4 階		
	フリガナ			

事業実施体制

※事業を実施するための人的体制、それぞれの役割分担を記載。それぞれの経験、能力等を示す資料を別添すること。複数のグループを設ける場合はその旨もわかりやすく記載。

事業総括、グループ リーダー、研究担 当、渉外担当等の別	氏名	所属機関・部局・職	役割分担
総括班			
総括班、理論班 核班、サイバー班	藤原 帰一	東京大学政策ビジョン研究 センター安全保障研究ユニ ット長	事業全体の総括、理論班お よび核班の総括、サイバー 班の研究担当
総括班、理論班、 宇宙班、サイバー班	城山 英明	東京大学公共政策大学院院 長	宇宙班、サイバー班の総括 および理論班の研究担当
総括班、理論班	高原 明生	東京大学大学院法学政治学 研究科教授	理論班、宇宙班、サイバー 班における中国政治外交の 担当
総括班、理論班	飯田 敬輔	東京大学大学院法学政治学 研究科教授	理論班における国際政治経 済、経済と安全保障の関わ りの視点提供
総括班、宇宙班、	永井 雄一郎	東京大学政策ビジョン研究 センター特任研究員	事業総括班、日本の宇宙政 策全般の研究、国際的連携 調整、国内連携調整
総括班、核班	向和 歌奈	東京大学政策ビジョン研究 センター特任助教	事業総括班、軍縮・不拡 散、核政策研究、国際的連 携調整、国内連携調整
総括班、理論班、 サイバー班	Roberto Orsi	東京大学政策ビジョン研究 センター兼任講師	ヨーロッパにおけるサイバ ー問題の分析
総括班、理論班	三浦 瑠麗	東京大学政策ビジョン研究 センター講師	国内世論と外交政策のかか わりにおける分析研究
総括班、理論班	玉置 敦彦	東京大学政策ビジョン研究 センター特任研究員	安全保障に関する理論の整 理と分析

その他協力者と担当班			
理論班	谷口武俊	東京大学政策ビジョン研究センター・教授	リスク管理全般の研究分析
核班	鈴木達治郎	長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長	核班における科学技術の側面、特に核関連技術問題の研究と視点の提供
核班、サイバー班	吉田文彦	笹川平和財団常任理事	サイバー班の総括、核班における非国家主体の動向、アメリカの核軍縮・不拡散政策に関する視点の提供
宇宙班	角南篤	政策研究大学院大学教授	科学技術と外交、科学技術と政治の問題分析
宇宙班、サイバー班	橋本靖明	防衛省防衛研究所理論研究部政治・法制研究室長	宇宙およびサイバーにおける安全保障問題の分析
理論班、サイバー班	岸本充生	東京大学公共政策大学院特任教授	リスク管理全般の研究分析
サイバー班	土屋大洋	慶應義塾大学教授	サイバー空間の安全保障全般に関する視点の提供
宇宙班	内富素子	東京大学政策ビジョン研究センター非常勤講師	宇宙に関する国際協力枠組みに関する法的・政策的課題の分析
理論班	賈慶国	北京大学教授	中国の外交政治についての研究分析と東アジア地域の協力体制の問題分析
核班	沈丁立	復旦大学教授	中国の核問題全般に関する研究分析
理論班、核班	G. John Ikenberry	プリンストン大学教授	日米同盟における核政策の展開と伝統的安全保障の理論研究
理論班、サイバー班	Mike Mochizuki	ジョージ・ワシントン大学	日米同盟におけるサイバー

		教授	政策の展開と伝統的安全保障の理論研究
宇宙班	Scott Pace	ジョージ・ワシントン大学 宇宙政策研究所長	米国の宇宙政策、宇宙安全保障問題全般、日米同盟宇宙協力に関する視点の提供
理論班	Ole Wæver	コペンハーゲン大学教授	安全保障に関する研究分析
宇宙班	Mukund Kadursrinivas Rao	インド国家高等研究所 (NIAS) 客員教員	インドおよびアジア太平洋地域における宇宙政策の分析
核班	Jeffrey Lewis	モントレイ国際大学院	核リスク、核軍縮・不拡散全般に関する知見の提供
核班	TS Gopi Rethinaraj	インド国家高等研究所 (NIAS) 准教授	軍民両面からの視点による核安全保障に関する分析
理論班、サイバー班	Yee Kuang Heng	シンガポール国立大学准教授	リスク研究と東南アジアにおけるサイバー問題の分析
理論班、核班	Alexander Lanoszka	ロンドンシティ大学講師	アメリカの核政策の動向分析
宇宙班	Victoria Samson	セキュア・ワールド財団理事	アメリカの宇宙政策
宇宙班	Kevin Pollpeter	CNA 研究員	中国の宇宙政策、アメリカの対中政策

2. 事業の背景・目的・意義

※応募時の事業計画書の該当部分を簡潔に記載。

(1) 事業の背景

パワートランジションや科学技術の進歩がめまぐるしい 21 世紀において、安全保障が対象とする問題も大きな広がりを見せている。その中で特に、1. 脅威の多様化／アクターの多様化、2. 脅威からリスクへの面的広がり、そして3. 対応段階の違いの重要性、の三点を指摘することができるだろう。またこれに加えて、4. 国際政治学を土台とした安全保障・外交研究が抱える課題についても大きく三つの点、実務家と研究者の認識の隔たり、世論の外部的作用に対する正確な認識、そして若年層の参加の乏しさ、を指摘することができる。

(2) 事業の目的と意義

事業の目的・意義は、21 世紀における安全保障・外交の新次元開拓とネットワーク構築を行うことである。特に本事業では、(1) 宇宙、(2) 核兵器、(3) サイバーという三つのテーマを設定し、具体的事例の調査・研究を行うことで、21 世紀の新しい安全保障・外交問題の実態解明、理論の再構築、そして対応策を探る。

まず、古くて新しい事例として「宇宙」と「核兵器」の問題を取り上げる。宇宙は、冷戦初期の時代から安全保障と密接に関わる空間であり、安全保障のために利用される空間である一方、安全保障の対象にもなってきた。しかし冷戦時代には、宇宙を利用できる主体もわずかな国に限定され、その中心は米ソであった。また宇宙空間は、米ソ双方による抑止戦略とも密接に関係していたことから、宇宙利用についても一定の安定性・共通理解が保たれてきた。しかしながら、途上国も含む宇宙活動を行う主体の多様化やパワーバランスの変化の中で、宇宙をめぐる安全保障も新たな次元を迎えている。同様に、「核兵器」も古くから安全保障問題の中心であったが、近年では新たな局面での対応に迫られている。従来は、軍備管理・軍縮を主要な争点として展開してきた国際政治における核研究も現在では核拡散を主要な課題としてリスク管理に大きくその焦点を移している。そこでは、伝統的な軍事利用と民生の区別が曖昧となり、軍事・民事を横断した包括的な核リスク管理の国際ネットワークが求められている。また、これに加えて、第三の事例として「サイバー」を取り上げる。サイバーセキュリティの問題は上記二つの事例とは異なり、極めて新しい安全保障上の課題といえる。科学技術の急速な進展によって生み出されたサイバーセキュリティの問題は、伝統的な安全保障概念、すなわち、主権国家と抑止という枠組みのみではもはや安全保障を捉えることを困難なものとした。また新興国・途上国という要素に加え、国家から個人へのパワートランジションという現象も指摘できるだろう。その一方で、サイバー攻撃の脅威への対応は、国家単位による予防・防衛策や緊密な多国間協力も必要としており、依然として伝統的な安全保障概念を切り離して考察することが難しい局面も存在する。つまり、サイバーの問題は新しくて古い外交安全保障問題の最適な事例といえるのだ。

上記のように個々の事例に対する一定の調査・研究を行うのと同時に、本事業では、「宇宙」、「核兵器」、「サイバー」の三領域の安全保障・外交問題がそれぞれ交錯し、新たな安全保障問題を生み出す実態に着目し、この事象と実態を解明することで、21 世紀型安全保障の複雑さを示すとともに、分野融合的なアプローチのあり方を探る。例えば、宇宙システムは、軍備管理や核実験の査察・監視手段として古くから利用されるなど、核兵器をめぐる安全保障・外交とも密接に関わってきた。一方で、宇宙空間における核爆発は、地球軌道に存在するあらゆる宇宙システムに致命的ダメージを与える。また、宇宙空間の安定的・持続的利用のためには、サイバー空間の安定性が不可欠である。こうした問題は、宇宙システムや地上インフラに対するサイバー攻撃への対応が今日の宇宙安全

保障において直面する深刻な課題となっていることから明らかである。スタックス・ネットを使ったイラン原子力施設へのサイバー攻撃は、単なるサイバー攻撃の範疇を超え、国際的な核不拡散政策や二国間あるいは多国間関係にまで広く影響を及ぼすこととなった。同様に、あらゆる情報が宇宙システムを介して通信されている今日、宇宙空間の安定的な利用環境の維持はサイバー空間の安全保障の問題でもある。このような分野横断的な安全保障・外交課題の実態にどのように対応していくかという問題こそ、21世紀型安全保障の要といえよう。

さらに本事業では、こうした具体的事例研究と分野間交錯の実態解明を通して、21世紀における安全保障の新次元に迫る理論的基礎を形づくる。第一に、安全保障問題の広がりの中で、従来の伝統的な安全保障の見方だけでなく、リスクや安全安心の側面にまで視点を広げた新たなアプローチのあり方を検討する。第二に、抑止のあり方についても再検討が必要である。これまでは国家と国家との抑止を意味していたが、新たな状況への対応に迫られる中でヒューマンセキュリティを含む多層的な抑止にまで考えを広げなければならない。誰が何をどのように抑止するのかという、主体の多様性と要因の多様性に対応する必要があるからだ。このような問題点を指摘する声は少なからず存在する一方で、調査・研究課題の複雑性や事例研究の難しさ、そして何より刻一刻と変化する状況を的確に捉え判断することの難しさから、真正面からこうした問題に取り組み十分な成果を生み出した調査・研究はない。本事業では、東京大学が持つ国際的な人材ネットワークおよび大学間連携プログラムを屈指し、学際的な人材に協力を要請しつつ、また実務家とのインタラクションも通じて、21世紀型安全保障についての理論構築を学術的な視点から行い、日本の外交政策の土台として活用できるものを提示したい。

また上記のような調査・研究を通じて国際的な人材ネットワークの構築、特に次世代の研究者・実務家との橋渡しを行っていく事も本事業の大きな目的の一つである。21世紀における新たな外交安全保障政策の検討には、(1)学術的な研究をそれだけで終えるのではなく、その研究成果を政策提言としてまとめることに加え、(2)その提言を直接実務家に送り届けることが必要となる。また、次世代の研究者・実務家を育成するためには、ただ若手に向けた一般的な発信を続けるだけではなく、

(3)若年層を直接のターゲットとするトレーニングの場が必要となる。本事業では、東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニットがこれまで展開してきた国際的共同研究の実績や人材ネットワークを駆使し、積極的に若手層の取り込みを図る。政策提言を直接実務家に届けるロードショーや将来の政策を担う若手を集めた集中的なトレーニング・ワークショップを行うことで、中堅実務家のみならず若手実務家との直接的な意見交換の場および提言を説明する機会を設ける。本事業で導き出された成果を現実の外交安全保障政策に反映する可能性を広げるという意味では、その意義はきわめて大きいといえるだろう。

これまで研究者が出す研究成果や提言が政策決定の中枢にまで影響を及ぼし得なかった背景には、本事業が目指す、中長期的な政策への影響にまで努力が及ばなかったからともいえるだろう。また、本事業では研究者が実務家によってより現実的な視点を学ぶ機会を設けるという重要な視点もあることを見逃すことができない。実務家と研究者とのインタラクションの成果を調査・研究面にもフィードバックすることで、研究と実務の隔たり、さらに中堅実務家と若手実務家との間の乖離を少しでも埋めることができるからだ。国家の外交安全保障政策は実務家だけではなく、それを学問の分野で支える研究者との共同作業であるべきであり、本事業はこの点を実現するための一助となることを目指し、大きな意義と捉える。

3. 事業の実施状況（2 ページ程度）

平成 28 年度、東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニットが本事業において行った活動の主な内容は以下の通りである。

■ 諸外国の大学、研究機関、研究者・実務家との連携を通じた相互理解の増進と国際的人材ネットワークの構築

1. 国際ワークショップ

- “The Shifting International Order: Theory, History, and Contemporary Debates”

日時：2016 年 6 月 17 日（水）～2016 年 6 月 18 日（土）

場所：国際文化会館 東京大学山上会館第 1 会議室

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・プリンストン大学・ダートマス大学

協力：国際文化会館

- “Australia, Japan, & Regional Security: Exploring Policy Frameworks & Approaches”

日時：2016 年 9 月 29 日（木）～2016 年 9 月 30 日（金）

場所：東京大学大学院法学部 3 号館 8 階会議室

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・オーストラリア国立大学

- “Five University Conference”

日時：2016 年 12 月 3 日（土）

場所：国際文化会館 会議室 402/403

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット

2. 特別セミナー

- Lecture by Professor G. John Ikenberry (Princeton University)

“Cracks in the Liberal World Order: The Crisis of Democracy and Liberal Internationalism”

日時：2016 年 2 月 1 日（水）

場所：東京大学大学院法学部 3 号館 8 階会議室

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット

■ 国際会議の開催や海外ロードショーを通じた日本の主張の積極的対外発信

1. 国際会議の主催

- “Alliance in Today’s World”（同盟会議）

日時：2016 年 6 月 15 日（水）

場所：国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・プリンストン大学・ダートマス大学

協力：国際文化会館

- “Australia, Japan, & Regional Security: Exploring Policy Frameworks & Approaches”（日豪セミナー）

日時：2016 年 9 月 29 日（木）～2016 年 9 月 30 日（金）

場所：東京大学大学院法学部 3 号館 8 階会議室

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・オーストラリア国立大学

- “5th Korea-Japan Dialogue on East Asian Security”（日韓セミナー）

日時：2016 年 11 月 5 日（土）

場所：ソウル大学校セミナールーム

主催：ソウル大学校米中関係研究センター・東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット

- **“Five University Conference”（五大学会議）**

日時：2016年12月2日（金）～2016年12月3日（土）

場所：国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット

2. 国内外で開催された会議への参加

- **IARU Women and Men in Globalizing Universities Working Group Meeting**

日時：2016年7月7日-9日

場所：北京大学

- **3rd SPLANAP University of Tokyo-NIAS Joint Regional Space Policy Roundtable Meeting**

日時：2016年8月16日

場所：National Institute of Advanced Studies (NIAS), INDIA

- **「JENESYS2.0」2016年度中国青年メディア関係者代表団第1陣日中メディア懇談会**

日時：2016年8月22日

場所：シェラトン都ホテル

- **第60回宇宙科学技術連合講演会**

日時：2016年9月8日-9日

場所：函館アリーナ

- **67th International Astronautical Congress (IAC)**

日時：2016年9月26日-29日

場所：グアダラハラコンベンションセンター（メキシコ）

- **第11回日中ジャーナリスト交流会議（日本側主催：「日中ジャーナリスト交流会議」実行委員会（㈱テレビ朝日、㈱電通、ANAホールディングス株式会社、㈱西武ホールディングス、一般社団法人共同通信社、キヤノン株式会社、日本放送協会等）中国側主催：中華人民共和国 国務院新聞弁公室**

日時：2016年10月25日

場所：新高輪プリンスホテル

- **日韓未来ビジョン・プロジェクト研究会および公開シンポジウム**

日時：2016年10月27-28日

場所：慶応大学三田キャンパス

- **Asian Economic Community Forum (AECF) 2016**

日時：2016年11月4日

場所：Holiday Inn Incheon Songdo Ballroom 1

- **Cyber3 Conference 2016（日本経済新聞社主催，Cyber3 Committee 設立準備委員会協力，世界経済フォーラム（WEF）、PwC Japan グループ企画協力）**

日時：2016年11月18日

場所：六本木ヒルズアカデミーヒルズ

- **Panel on Peace and Security of Northeast Asia (PSNA)**

日時：2016年11月19日-20日

場所：ホテルニュー長崎

- **第26回国連軍縮会議 in 長崎**

日時：2016年12月12日-13日

場所：ホテルニュー長崎

- 日韓未来ビジョン・プロジェクト研究会

日時：2016年12月12-13日

場所：ソウル

- 日韓未来ビジョン・プロジェクト研究会

日時：2017年2月23日

場所：慶応大学三田キャンパス

■ 国民の理解増進のための公開フォーラムの開催およびウェブサイトを通じた積極的な情報発信

1. SSU フォーラムの開催

- 第23回 SSU フォーラム

日時：2016年7月12日（火）10:30-12:00

報告者：Celine Pajon 研究員（フランス国際関係研究所）

題目：“Long Term Dynamics of the Japan-US Alliance”

- 第24回 SSU フォーラム

日時：2016年9月7日（水）10:30-12:00

報告者：Caroline Baylon（情報セキュリティ研究部主査（AXA））

土屋大洋教授（慶應義塾大学）

題目：“Cyber Security and International Order”

- 第25回 SSU フォーラム（東京大学公共政策大学院と共催）

日時：2016年10月17日（月）10:30-12:00

報告者：Stephen Biddle 教授（ジョージワシントン大学）

題目：“Strategy and Policy for the Wars in Iraq and Syria”

- 第26回 SSU フォーラム（東京大学公共政策大学院と共催）

日時：2016年11月1日（火）10:30-12:00

報告者：Richard Barrons 卿（RUSI 上級研究員、英陸軍大将（退役）、前英国統合軍司令官）

題目：“Technology and the Transformation of British Defence for the 21st Century”

- 第27回 SSU フォーラム

日時：2016年11月16日（水）15:00-16:30

報告者：Sheila Smith 上級研究員（米国外交問題評議会）

題目：“Revisionism, Populism or Nationalism?: The Political Currents that Shape the U.S-Japan Alliance”

- 第28回 SSU フォーラム（長崎大学核兵器廃絶研究センターと共催）

日時：2016年11月21日（水）14:00-16:00

基調講演：Morton H. Haoperin 上級顧問（オープン・ソサイエティ財団）

題目：“Security Challenges and Denuclearization of Northeast Asia”

講演者：Michael Hamel-Green 教授（ビクトリア大学）

Jeffrey Lewis 部長（ミドルベリー国際大学院モントレイ校不拡散研究所）

村上顯樹課長（外務省軍縮不拡散・科学部、軍備管理軍縮課）

- 第29回 SSU フォーラム

日時：2017年1月17日（火）10:30-12:00

報告者：Mikkel Rasmussen 教授（コペンハーゲン大学）

題目：“Crisis and Cohesion: The Western Alliance and the End of European Integration”

- 第30回 SSU フォーラム

日時：2017年2月15日（水）10:30-12:00

報告者：Tai Ming Cheung 教授（カリフォルニア大学サンディエゴ校）

題目： “Understanding China’s Military Technological Rise and the Global Implications”

- 第 31 回 SSU フォーラム

日時：2017 年 2 月 24 日（金）17:30-19:00

報告者：Cedric de Coning 上級主席研究員（ノルウェー国際問題研究所）

青井千由紀教授（東京大学公共政策大学院）

題目： “Is UN Peacekeeping Still Relevant in a Time of Increasingly Violent Conflict?-A Critical Reflection on UN Peacekeeping Doctrine in a New Era

- 第 32 回 SSU フォーラム

日時：2017 年 2 月 28 日（火）10:30-12:00

報告者：吉田文彦副センター長（長崎大学 RECNA）

Bill Emmott（元エコノミスト編集長）

題目： “New Security Challenges under Emerging Technologies-Implications to Deterrence and Strategic Stability ”

2. 公開セッションの開催

- “The Shifting Dynamics of the US-Japan Alliance”

日時：2016 年 6 月 16 日（土）

場所：国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・プリンストン大学・ダートマス大学

協力：国際文化会館

- “How Can We Verify Nuclear Disarmament?”

日時：2016 年 7 月 1 日（金）

場所：東京大学大学院情報学環 福武ラーニングシアター

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・外務省

協力：日本軍縮学会・日本原子力学会 核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会

- “Building Regional Space Policy Cooperation in Asia”

日時：2016 年 11 月 16 日（水）

場所：センチュリーパークホテルマニラ カンラオンルーム

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット

協力：National Institute of Advanced Studies (NIAS) , India

- “International Security in Times of Uncertainty”

日時：2016 年 2 月 1 日（水）

場所：ハイアットリージェンシー東京 クリスタルルーム

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット

3. ウェブサイト

- 日本語ウェブサイト：<http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/ssu/index.html>

- 英語ウェブサイト：<http://pari.u-tokyo.ac.jp/eng/unit/ssu/index.html>

4. 事業の成果（公開部分のみで2ページ程度）

東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニットでは、「国際社会におけるリスクの多様化と安全保障・外交の新次元」をテーマに、1. 情報収集および調査・研究、2. 諸外国の大学、研究機関、研究者・実務家との連携を通じた相互理解の増進と国際的人材ネットワークの構築、3. 国際会議の開催や海外ロードショーを通じた日本の主張の積極的対外発信、4. 国民の理解増進のための公開フォーラムの開催およびウェブサイトを通じた積極的な情報発信を柱として活動を実施してきた。以下では、それぞれの活動状況を報告する。

1. 基礎情報収集および調査研究

東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニットでは、事業代表者である藤原帰一のもと、安全保障研究ユニット所属のメンバーが本事業遂行の中核を担い、外部の有識者とともに専門性高く、且つ、政策面で応用可能性のある情報収集及び調査研究を行ってきた。核、宇宙、そしてサイバーの各分野が直面する新たな外交安全保障課題について、従来の安全保障研究における視点のみならず、「リスク」という視点も取り入れたより広い観点から問題の所在を精査し、21世紀における新しい安全保障の実態について理論的かつ実践的な検討を行った。とりわけ、平成28年度においては、核、宇宙、サイバーの各領域における安全保障問題が、それぞれの分野を超えて相互に密接に関連し合う特徴を持つばかりか、その影響が広く民間セクターや国民の社会生活にまで及ぶ可能性があることを明らかにし、こうした複合的な性格を持つ今日の安全保障問題に対する有効なアプローチの在り方を検討した。

また本事業では、平成26年度より開催してきた「SSU フォーラム」と題した小規模な公開形式の研究会を継続して実施してきた。平成28年度においては、計10回のSSU フォーラムを開催した。このSSU フォーラムでは、国内外の実務者や研究者を招聘し、広く外交・安全保障問題をテーマとして講演を行っていただくとともに、参加者との意見交換・情報共有を行ってきた。本フォーラムでは、実務者の視座による国際政治および外交安全保障問題の現状理解と、研究者による学術的な分析とを融合させる事によって、現実 に即した政策研究を進めることを目指してきた。加えて、本事業においては、諸外国の研究者との連携によって国際会議等を開催することで、国際政治や外交安全保障問題に関する最新動向や各国の意見、さらには海外の研究動向の把握にも努めてきた。

2. 諸外国の大学、研究機関、研究者・実務家との連携を通じた相互理解の増進と国際的人材ネットワークの構築

平成28年度においては、国際的人材ネットワークの構築の一端として、特に若手研究者の養成と連携の重要性に鑑み、若手教育を目的としたワークショップを積極的に実施し、計4回の開催を実現した。

また本事業では、これまで東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニットが培ってきた国際政治及び外交安全保障の分野における豊富な海外とのネットワークを活かし、諸外国の研究機関や研究者との緊密な交流によって相互理解の増進及び連携にも努めてきた。平成28年度においては、6月15日（同盟会議）、9月29～30日（日豪セミナー）、11月1日（日韓セミナー）、12月2～3日（五大学会議）をそれぞれ開催した。同盟会議ではダートマス大学とプリンストン大学との共催、日豪セミナーではオーストラリア国立大学との共催、日韓セミナーではソウル国立大学との共催、五大学会議ではプリンストン大学、シンガポール国立大学、高麗大学、北京大学との合同開催（主催は東京大学）をそれぞれ達成し、諸外国の大学との積極的な連携と研究者間の相互理解の増進に努めた。このような海外の大学との緊密な連携により、本事業に関連する重要な課題についても諸外国の状況や

研究動向も踏まえた具体的な議論・意見交換が可能となった。これらの課題に対する諸外国の意見は必ずしも同じではないものの、密な議論を進めることで、相互理解の増進と今後の政策における連携の必要性を確認することができた。

加えて、国内外で開催される国際会議等にも積極的に参加し、外交安全保障問題に関する最新情報や研究動向の把握、さらには本ユニットにおける研究成果や主張の発信にも努めてきた。平成 28 年度においては、国際研究型大学連合（IARU）、インドの National Institute of Advanced Studies（NIAS）と共催した宇宙政策に関するラウンドテーブル、第 60 回宇宙科学技術連合講演会、67th International Astronautical Congress (IAC)、第 11 回日中ジャーナリスト交流会議、Asian Economic Community Forum (AECF) 2016、Cyber3 Conference 2016、第 26 回国連軍縮会議、2016 年度中国青年メディア関係者代表团第 1 陣日中メディア懇談会といった国際会議に参加した。これらの会議では、研究体制のメンバーが基調講演や研究報告などを行い、積極的に本事業の成果を発信・共有した。

3. 世界に向けた発信

また東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニットでは、日本の主張を世界に向けて発信することにも取り組んできた。上記の通り、今年度は 4 回の国際会議を開催し、研究の成果を適宜報告するとともに参加者との積極的な議論を通じた日本からの発信に努めてきた。また国内外の国際会議への積極的な参加を通じて、研究成果や日本の主張を広く対外的にも発信するとともに、各国の研究者とのインタラクションを通して問題意識の共有や対応策の検討を行ってきた。

また当ユニットでは、平成 25 年度より専用のウェブサイトを開設しており、平成 28 年度においても積極的かつタイムリーな情報発信を行ってきた。特に英語による情報発信にも力を入れており、上記の SSU フォーラムや国際会議の開催報告を日英両言語で発信している。本事業の成果を世界に向けて積極的に対外発信することによって、国際世論の形成にも貢献してきたと考える。

4. 公開フォーラムの開催による国民の理解増進

さらに本事業では、その成果を一般国民に対しても広く情報を発信することにより、新しい外交安全保障問題に対する一般国民の理解増進にも積極的に取り組んできた。平成 28 年度においては、計 4 回の公開フォーラム（あるいはワークショップ）を開催した。6 月に国際会議を主催した際には、一般公開のパブリック・フォーラムを併設して開催し、“The Shifting Dynamics of the US-Japan Alliance”をテーマに公開討論を行った。また 7 月には、外務省と連携し、核軍縮の検証に関する公開ワークショップを実施した。また、2017 年 2 月には、“International Security in Times of Uncertainty”と題し、本事業の最終成果を発信する公開フォーラムを開催した。これらの公開フォーラムは、毎回 100 名を超える一般の参加者を集めてきた。加えて、平成 28 年度においては、11 月にフィリピンのマニラで開催されたアジア太平洋地域宇宙機関会議（APRSAP）の機会に、そのサイドイベントとして宇宙政策に関する小規模な公開ワークショップも開催した。これら一般公開のフォーラムを実施してきたことで、日本が直面する新しい安全保障の重要な課題に対する国民の理解増進にも貢献できたものとする。

同時に、上記の SSU フォーラムの開催は、外交安全保障分野に関する意見交換と議論の場として定着してきており、平成 28 年度においては研究者や実務家といった有識者に止まらず、学生や主婦に至るまで幅広い層からの参加者を得た。

また、先述の通り、本事業で実施した国際会議や公開フォーラム、SSU フォーラム等の概要や成果については、ウェブサイトを通じて広く情報発信を行ってきた。特に、主要な公開フォーラムの成果は動画とともにウェブサイトで公開されており、日本の一般国民、さらには世界の人々の外交安全保障問題に対する理解の増進にも寄与してきた。

5. 事業成果の公表

■ ウェブサイト

東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニットでは、研究の成果や日本の立場を広く世界にも発信するため、日英両言語による専用のウェブサイトを活用し積極的に事業成果を随時公開してきた。<http://pari.u-tokyo.ac.jp/eng/unit/ssu/index.html> 本ウェブサイトを通して、本事業において開催してきた国際会議や SSU フォーラムなどの成果報告、またユニットメンバーによる研究成果の発信など、広く国内外へ向けた情報発信と理解増進にも力を入れてきた。

■ 公開セッション

- “The Shifting Dynamics of the US-Japan Alliance”

日時：2016 年 6 月 16 日（木）10：00-12：00

場所：国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・プリンストン大学・ダート大学 協力：国際文化会館

参加者：約 100 名

- “How Can We Verify Nuclear Disarmament?”

日時：2016 年 7 月 1 日（金）14：00-16：30

場所：東京大学大学院情報学環 福武ラーニングシアター

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット・外務省

協力：日本軍縮学会・日本原子力学会 核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会

参加者：約 130 名

- “Building Regional Space Policy Cooperation in Asia”

日時：2016 年 11 月 16 日（水）9：30-12：00

場所：センチュリーパークホテルマニラ カンラオンルーム

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障ユニット

共催：National Institute of Advanced Studies (NIAS), INDIA

参加者：約 10 名

- “International Security in Times of Uncertainty”

日時：2017 年 2 月 1 日（水）14：30-17：30

場所：ハイアットリージェンシー東京 クリスタルルーム

主催：東京大学政策ビジョン研究センター

参加者：約 120 名

■ SSU フォーラム

- 第 23～32 回 SSU フォーラム（詳細は「3. 事業の実施状況」を参照）

■ 書籍

- 青井千由紀（共編著者）JUN Peacekeeping Doctrine In a New Era: Adapting to Stabilization, Protection & New Threats (Co-editor with Cedric de Coning and John Karlsrud), Routledge (Global Institutions Series), 2017.
- 青井千由紀（共著、一章担当）“Conditions for Effective Intelligence and Information-Sharing: Insights from Dutch–Japanese Cooperation in Iraq, 2003–2005,” in Irina Goldenberg, Joseph Soeters, and Weylon H.

Dean eds., *Information Sharing in Military Operations* (Springer, 2017).

- Heng Yee Kuang, *Managing Global Risks in an Urban age: Singapore and the making of a Global City*, 'Rethinking Asia and International Relations' Series, London: Routledge, 2016.
- 三浦瑠麗『「トランプ時代」の新世界秩序』新潮新書、2017年1月。
- 高村正彦・三浦瑠麗『国家の矛盾』新潮新書、2017年2月。(共著)

■ 記事一覧 (コラム、インタビュー等)

- John Nilsson-Wright and Kiichi Fujiwara, "Brexit and Its Consequences: Anglo-Japanese Relations in a Post-EU Referendum World," London: Chatham House, 2016.
- 藤原帰一「デモクラシーのパラドックスー内側から失われる自由」2017年2月24日。
- 藤原帰一「国連による平和構築ー過大な目標は捨てよ」2017年1月25日。
- 藤原帰一「トランプ氏と世界ー民主主義が招く『犠牲』」2017年1月4日。
- 藤原帰一「トランプ氏の当選ー指導者失った自由世界」2016年11月28日。
- 藤原帰一『『良いトランプ』への変貌は期待しない方がいい』2016年11月16日 (インタビュー)
- 藤原帰一「反グローバリズムー経済停滞が生む悪循環」2016年10月27日。
- 藤原帰一「アメリカとフィリピンー法の支配、失われる危機」2016年11月23日。
- 藤原帰一「多数派と少数派ー共存の民主主義どこへ」2016年8月25日。
- 藤原帰一「アメリカの人種対立ー多様性の尊重に揺らぎ」2016年7月21日。
- 藤原帰一「テロと移民排斥ー多元主義崩壊の危機」2016年6月27日。
- 藤原帰一「オバマ大統領とアメリカー核兵器を拒絶するには」2016年5月26日。
- 藤原帰一「現代の国際関係ー抑止戦略の限界に直面」2016年4月22日。
- 高原明生「習近平政権の外交と日米中関係」、天児慧・李鍾元編『東アジア 和解への道——歴史問題から地域安全保障へ』、岩波書店、2016年9月、123-138頁。
- Akio Takahara, "The American Factor in Japan-China Relations," Bo Zhiyue (ed), *China-US Relations in a Global Perspective*, Victoria University Press, 2016, pp.145-152.
- 高原明生「仲裁裁定後の南シナ海をめぐる中国外交」、『国際問題』2017年3月号、2017年3月刊行予定。
- 飯田敬輔「主要国の国際秩序観と外交ー比較のための手がかりとして」、『レヴアイアサン』58号 (2016年4月)、9~22頁。
- 高原明生「習政権 指導部に不協和音」、多思彩々、『信濃毎日新聞』2016年4月17日、5面。
- 高原明生「中国の政治動向」、『學士會会報』、第919号、2016年7月1日、22-26頁。
- 高原明生「力をもって法に代える中国」、多思彩々、『信濃毎日新聞』2016年7月10日5面。
- 高原明生「海洋進出 中国の危うい行動」、多思彩々、『信濃毎日新聞』2016年10月16日5面。
- 高原明生「日中間の危険な認識ギャップ」、『アステイオン』、85号、2016年11月、158-161頁。
- 高原明生「中国海洋進出の論理」、激動の世界を読む、『毎日新聞』2017年1月10日。
- 高原明生「米中の動向 目離せぬ年に」、多思彩々、『信濃毎日新聞』2017年1月22日5面。
- 高原明生「中欧、東欧の魅力」、『公研』642号 (2017年2月)、16-17頁。
- Akio Takahara "Japan and Europe Cooperation on a Growing but Ailing China," *Cooperation in the Midst of Crisis: Trilateral Approaches to Shared International Challenges*, Asia Policy Paper, 2016 No.22, The German Marshall Fund of the United States, May, 2016, pp.15-9.
- Masahiro Kohara, "East Asia, China and Japan in the age of Donald Trump," January 26, 2017.
- Masahiro Kohara, "East Asia in the Trump Era," January 8, 2017.
- Marie Nodzenski, Kai Hong Phua, Yee Kuang Heng, and Tikki Pang "Shaping Norms for Health Governance

in the Association of Southeast Asian Nations (ASEAN)", *Global Health Governance*, Vol. X No. 2, Fall 2016.

- Heng Yee Kuang, Smart, "Power and Japan's Self-Defence Forces," *Journal of Strategic Studies*, Vol. 38 No. 3, 2015.
- Chiyuki Aoi, "Conditions for Effective Intelligence and Information-Sharing: Insights from Dutch-Japanese Cooperation in Iraq, 2003-2005," in Irina Goldenberg, Joseph Soeters, and Weylon H. Dean eds., *Information Sharing in Military Operations*, Springer, 2017.
- Lully Miura, "Soft Power," in RJIF ed., *Why Japan Matters?* Routledge, 2017 (in print).
- 三浦瑠麗 「序章 ソフトパワー」日本再建イニシアティブ編『ガラパゴス・クールー日本再発見のための11のプログラム』東洋経済新報社、2017年2月。
- Lully Miura "Can Koike Change Japanese Politics?" PacNet, CSIS Pacific Forum, August 9, 2016.
- 三浦瑠麗 「TPPの存在意義」『Voice』PHP、2016年12月号、2016年11月10日。
- 三浦瑠麗 「米国社会を揺るがすマイノリティー」『潮』2016年12月号、2016年11月5日。
- 三浦瑠麗 「帝国の座から降り始めたアメリカとのつき合い方」『2017年の論点100』文藝春秋、2016年11月。
- 三浦瑠麗 「大統領選と「トランプ現象」」『北國新聞』北風抄、2016年10月17日朝刊。
- 三浦瑠麗 「北の核問題 究極の選択とは」『Voice』2016年11月号、2016年10月10日。
- 三浦瑠麗 「ヒラリーに課せられた試練」『潮』2016年11月号、2016年10月5日。
- 三浦瑠麗 「リアリズム時代の幕開け」『Voice』2016年10月号、2016年9月10日。
- 三浦瑠麗 「移民問題と米国の自画像」『潮』2016年10月号、2016年9月5日。
- 三浦瑠麗 「被爆国と核の傘」『北國新聞』北風抄、2016年8月29日朝刊。
- 三浦瑠麗 「左右の極論を排して」『週刊新潮』2016年8月25日号、2016年8月18日。
- 三浦瑠麗 「トランプ現象の本質」『Voice』2016年9月号、2016年8月10日。
- 三浦瑠麗 「英国のEU離脱が示すもの」『潮』2016年9月号、2016年8月5日。
- 三浦瑠麗 「資本主義への不信と対応」『北國新聞』北風抄、2016年7月12日朝刊。
- 三浦瑠麗 「広島訪問でオバマ大統領が残したもの」『潮』2016年8月号、2016年7月5日。
- 三浦瑠麗 「異例続きの米国大統領選の構図」『潮』2016年7月号、2016年6月5日。
- 三浦瑠麗 「保守とりべラル アメリカの底流を読む」『潮』2016年6月号、2016年5月5日。
- 三浦瑠麗 「トランプ氏当選を「当てた」「外した」より大事なこと」プレジデントオンライン、2016年11月17日。
- 三浦瑠麗 「アジアの安全保障は—米から「自立」は危険」読売新聞、2017年1月7日。
- 三浦瑠麗 「2017年と10年後の日本の外交」『日経ビジネス』2017年1月9日号。
- 三浦瑠麗 「大統領選後のアメリカは憎悪によって引き裂かれる」週刊SPA!インタビュー、2016年11月7日。
- 三浦瑠麗 「杜特尔特访日面面観我要评论」新華社通信、日比首脳会談についてコメント、2016年10月27日。
- 三浦瑠麗 「震災後も変わらなかった日本社会の「異様」」東大新聞、東洋経済オンライン、2016年9月12日。
- 三浦瑠麗 「「トランプ大統領」ならアメリカと世界はどう変わる？」日経デュアル（上下）2016年8月24日。
- Lully Miura, "Japan Election, a Landslide for Abe, Could Allow a Bolder Military," by Motoko Rich, The New York Times, July 11, 2016.
- Lully Miura, "Forget Sanctions, Reining in North Korea Will Need a Whole New Approach," *The*

Conversation, February 13, 2017.

- Robert Orsi, "The European Union at a Crossroads," February 20, 2017.
- Roberto Orsi, "President Trump and the Politics of Tragedy," December 2, 2016.
- Roberto Orsi, "Brexit. Now What?" November 7, 2016.
- Roberto Orsi, "The Great Pushback: Western Politics and Dynamics Exclusion," June 6, 2016
- Wakana Mukai, "Human Costs of Nuclear War Are Driving Push Towards a Ban Treaty—Finally," March 27, 2017.
- 玉置敦彦「ベトナム戦争をめぐる米比関係—非対称同盟と『力のパラドックス』」『国際政治』第188号（近刊）
- 玉置敦彦「米韓同盟と日韓国交正常化—六・三事態をめぐるアメリカの対韓政策、一九六四年」『神奈川法学』（近刊）
- Yuichiro Nagai, Mukund Rao, Hideaki Shiroyama, K.R. Sridhara Murthi, and Motoko Uchitomi, "Specifics of Space Cooperation Potential Between Japan and India," conference paper presented at the 67th International Astronautical Congress, International Astronautical Federation, Guadalajara, September 2016
- 永井雄一郎「歴史から見る米国の宇宙政策の目的」日本航空宇宙学会『第60回宇宙科学技術連合講演会講演集』2016年9月。
- Yuichiro Nagai, "How Japan's Space Program is Doing More with Less," *World Politics Review*, September 14, 2016.

■ 講演

- Akio Takahara, "East Asia: Where are Things Headed?" Symposium Panelist, Program on U.S.-Japan Relations, Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University, held at the CGIS South Building, April 29, 2016.
- Akio Takahara "China's External Policies under Xi Jinping: Implications for Japan," Distinguished Visitor Lecture, delivered at the Harvard Faculty Club, April 29, 2016.
- 高原明生「アメリカ次期政権下の日米同盟——激動する東アジア情勢と沖縄」、パネリスト、拓殖大学海外事情研究所安全保障総合シンポジウム、於拓殖大学文京キャンパス後藤新平・新渡戸稲造記念講堂、2016年7月2日。
- 高原明生「日中関係の発展」、上海国际问题研究院主催第七回“中日关系中的台湾问题”學術研究討論会、於虹橋迎賓館、上海、2016年8月2日。
- 高原明生「如何消除日中間的认识差异」、日中友好会館主催、「JENESYS2.0」2016年度中国青年メディア関係者代表団第1陣日中メディア懇談会基調発表、於シェラトン都ホテル、2016年8月22日。
- 高原明生「日中之间的一些认识差距」、第30回日本国際問題研究所・中国国際問題研究院対話、於中国国際問題研究院、2016年8月25日。
- Akio Takahara, "Sino-Japanese Relations: Perception Gaps and the Impact of Domestic Politics," presented at the USC International Forum on Sino-Japanese Relations, Cho Yiu Hall, The Chinese University of Hong Kong, October 27, 2016.
- 高原明生「経済発展と中国政治」、孫中山記念会主催、孫文生誕150周年記念特別講演会「百年後にスタートした孫文の夢と現実」基調講演、於兵庫県公館、2016年11月11日。
- 高原明生「中国の台頭は日米にとって何を意味するか」、安倍フェローシップ25周年記念シンポジウムパネル1「国際関係・安全保障・外交」、於虎ノ門ヒルズフォーラム、2016年11月15日。
- Akio Takahara, "Japan in Asia: How to Deal with a Rising China," key note lecture at the 14th Inter-College

International Seminar, Japan in Asia: Toward the Development of New Cooperative Relations, held by the Kanagawa International Foundation at Shonan Village Academic Research Center, November 26, 2016.

- Keisuke Iida and Motoshi Suzuki, "Analyzing International Developmental Loan Markets with Rival Lenders," paper presented at the annual convention of the International Studies Association, Atlanta, GA, March 16-19, 2016.
- Keisuke Iida, "What Can Political Science Tell us about Brexit and Trump?" Oral presentation presented at the public session organized by the Policy Alternative Research Institute, The University of Tokyo "International Security in Times of Uncertainty," Hyatt Regency Tokyo, Tokyo, February 1, 2017.
- 三浦瑠麗「サイバーの变えた世界地図、政府、企業の今と未来」"Cyber3 Conference 2016"、日本経済新聞社主催、Cyber3 Committee 設立準備委員会協力、世界経済フォーラム (WEF)、PwC Japan グループ企画協力、於六本木ヒルズアカデミーヒルズ、2016 年 11 月 18 日。
- 三浦瑠麗・基調講演「日中韓国際意識調査」第 11 回日中ジャーナリスト交流会議、日本側主催：「日中ジャーナリスト交流会議」実行委員会 (㈱テレビ朝日、㈱電通、ANA ホールディングス株式会社、㈱西武ホールディングス、一般社団法人共同通信社、キヤノン株式会社、日本放送協会等) 中国側主催：中華人民共和国 國務院新聞弁公室、於新高輪プリンスホテル、2016 年 10 月 25 日。
- 三浦瑠麗「トランプ大統領で日米関係どう変わる」YMC 郡山セミナー講演、於ホテルハマツ郡山、2017 年 2 月 27 日。
- 三浦瑠麗「資本主義に対する信頼を回復するには」金沢経済同友会講演、於 ANA クラウンプラザ金沢、2017 年 2 月 22 日。
- 三浦瑠麗「新勢力均衡時代の米国と日本」大阪倶楽部講演、於大阪倶楽部、2017 年 2 月 15 日。
- 三浦瑠麗「広がるグローバリゼーションへの反感—それでもコマーシャル・ピースを模索すべき理由」政治・社会研究会講演、於都市センターホテル、2017 年 1 月 23 日。
- 三浦瑠麗「グローバル化時代の政党と政府」希望の塾講演、於帝京平成大学池袋キャンパス沖永記念ホール、2017 年 1 月 14 日。
- 三浦瑠麗「近代日本はいかにして戦争に突入したか」あすか創建コンプライアンス講演会講演、於 TKP ガーデンシティ品川、2017 年 1 月 6 日。
- 三浦瑠麗「アメリカ大統領選と日本を取り巻く国際情勢」毎日世論フォーラム、毎日新聞社主催、於ホテルニューオータニ博多、2016 年 11 月 25 日。
- 三浦瑠麗「『本当の冷戦後』が始まった日米関係を展望する」実例法務研究会、於 ANA インターコンチネンタルホテル東京、2016 年 11 月 11 日。
- 三浦瑠麗「『本当の冷戦後』が始まった日米関係を展望する」経済倶楽部、2016 年 10 月 21 日。
- 三浦瑠麗「世界情勢の今を読み解く」交詢会講演、於交詢ビル、2016 年 9 月 30 日。
- 三浦瑠麗「グローバル化と国家」～英国の EU 離脱と米大統領選挙を踏まえた今後、日本が進むべき道～猪瀬直樹×ケント・ギルバート×三浦瑠麗×小谷賢、於日本経済大学、2016 年 8 月 24 日。
- 三浦瑠麗「グローバリゼーションに揺れる米欧社会と新・勢力均衡時代の訪れ」北國新聞政経懇話会、於金沢東急ホテル、2016 年 8 月 23 日。
- 三浦瑠麗「民主主義と戦争、平和の関係を考える」『Will be アカデミー』キャンディッド・コミュニケーションズ主催、於東京大学、2016 年 8 月 21 日。
- 三浦瑠麗「米大統領選—トランプ現象を分析・報道する視角—」共同通信「報道と読者」連絡協議会、於共同通信社本社、2016 年 5 月 25 日。
- 三浦瑠麗「新・勢力均衡の時代」名古屋正論懇話会、於名鉄グランドホテル、2016 年 5 月 13 日。
- 向和歌奈「核軍縮・不拡散に向けた世界的動き①」広島県主催「グローバル未来塾」於ひろしま国

際プラザ、2017 年 8 月 20 日。

- 玉置敦彦「日米同盟と『リベラルの時代』の終焉」国分寺市並木公民館主催「現代社会を考える講座 アメリカ新大統領就任後の世界を考える」、於国分寺市並木公民館、2017 年 3 月 11 日。
- Nobuhiko Tamaki, “America's Alliances and the Future of East Asian Order,” the 4th China-Japan Young Leaders Forum, the Centre on Asia and Globalization at the Lee Kuan Yew School of Public Policy, National University of Singapore, Tokyo (Keio University), November 26-27, 2016.
- Yuichiro Nagai, “Interconnected Risks in Space and Cyberspace,” SRA Annual Meeting, Society for Risk Analysis, San Diego, December 12, 2016.
- Yuichiro Nagai, “Japan’s Space Policy and Regional Space Cooperation in the Asia Pacific Region,” International Workshop on “Building Space Policy Cooperation in Asia, APRSAF Side Event, Manila, November 16, 2016.
- Yuichiro Nagai, “Japan-India Cooperation for Maritime Security and Safety in the Indo-Pacific Ocean,” the 3rd Space Policy Round-Table Meeting, National Institute of Advanced Studies, Bangalore, August 16, 2016.

6. 事業総括者による評価（2ページ程度）

※事業総括者による事業の進展、成果についての評価コメントを記載。

政策ビジョン研究センターは、東京大学という大学のなかに設けられた政策指向のシンクタンクであり、大学を場とする教育・研究とも、また政策提言や社会調査を目的とする一般的なシンクタンクともその点において異なっている。本プロジェクトでは、大学のシンクタンクという独自な特徴を最大限に活用しながら、安全保障に関する多角的な共同研究を進めてきた。

この共同プロジェクトの設定した課題は、安全保障という領域における伝統的課題と現代的課題の双方を考察し、さらにそれらの連関を捉えることであった。その目的を実現するために、第一に、伝統的安全保障にすなわち経済的にも軍事的にも大きな力を擁する大国を主体とし、高度な軍事力を政策の手段とし、自国の安全を確保することを目的とする政策領域についてワークショップを開催し、内外の専門家による討議を行った。現代世界においても、北朝鮮の脅威や中国の台頭など、伝統的安全保障に属する課題の重要性は減っていないからである。

そのなかでも、5大学共同東アジア安全保障会議は、アメリカ（プリンストン大学）、中国（北京大学）、韓国（高麗大学）、シンガポール（シンガポール国立大学）、そして日本（東京大学）と幅広い数の諸国から専門家の参加を得て開催するものとして別格といてよい意義を持つものであった。その原型となった会議も含めて考えれば9年にわたって開催してきたこの会議は、既に東アジア安全保障に関するもっとも重要な会合のひとつとして高く評価されている。プリンストン大学のジョン・アイケンベリー教授と並び、その企画運営に当たってきたひとりとして、望外の喜びである。

だが、伝統的安全保障を扱うだけでは現代世界の安全保障を捉えたことにはならない。半世紀近くに及んだ東西冷戦の時代は伝統的安全保障への取り組みが外交政策の主要な課題とされた時代であったが、東西冷戦が終わってから四半世紀、安全保障の姿は大きく変容した。現代においては、軍事力に頼ることなく電子情報の操作によって相手国の経済や政治に打撃を与えるようなサイバー攻撃、あるいはテロリズムを典型とした国家を主体としない脅威と暴力を視野に入れることができれば安全保障の分析として意義を認めることはできないだろう。

このような非伝統的安全保障に関する分析を行う上で示唆を与えるのが、オレ・ウィーバー・コペンハーゲン大学教授の提起する「安全保障化」概念である。本プロジェクトではオレ・ウィーバー氏の参加を得て、安全保障の意味の変化と地域的特性について研究を進めてきた。さらに、リスク管理に関するプロジェクトの成果も活かしながら、宇宙とサイバーという二つの領域における非伝統的安全保障について検討を進め、核兵器・核戦略を中核とする伝統的安全保障との交錯、相互の連関の解

明にも力を注いできた。それらの成果は、SSU フォーラムと題する一般参加に開かれた会合を定期的に開催し、研究成果を社会と共有するように努めてきた。また、年初に開催してきた大規模な国際ワークショップにおいて、伝統的安全保障と非伝統的安全保障の双方を含む研究報告と討論を行うことによって、伝統的安全保障と非伝統的安全保障の相互連関を捉えることに努力を重ねてきた。2回の会合において内外の専門家の参加を広く求めることによって、政策ビジョン研究センターが安全保障研究における国際的な拠点として認められるようになったと自負している。

さらに、若手研究者の養成にも力を注いできた。これまでの大学における国際交流は、内外研究者が進める共同研究と、海外の大学との交換留学という二つの形で進められ、双方が結びつくことは少なかった。東京大学においては戦略的パートナーシップと題する大学間の国際交流が進められているが、この枠組みを最大限に利用し、大学院生を含む若手研究者の研究発表と、すでに専門家としての評価を得ている中堅研究者によるワークショップを同じ時期に開催し、研究と教育を有機的に結びつけるように努力してきた。その成果が、2016年に相次いで行われた、プリンストン大学との協力によるワークショップと、オーストラリア国立大学との協力によるワークショップであり、さらに北京大学を会場として東京大学・北京大学共同ワークショップも開催した。研究と教育を同時に進めることによって、共同研究と交換留学との間に開いた溝を埋めることができたと考えている。

大学は、先端的な研究を行う場であるとともに、その成果を若い世代に伝え、将来を担う人材を養成するという二つの使命を持っている。政策ビジョン研究センター安全保障ユニットは、その二つの使命をともに達成するとともに、大学にとどまることなく広く日本社会に研究成果を発信するように努力してきた。二年間の活動によって、本センターは国際的にも広く知られる存在となったといっ

よい。その実現を可能とした外交・安全保障調査研究事業費補助金に心から謝意を表したい。